善心

令和8年4月17日(金)
生徒指導だより
生徒指導主任　No.2

自転車の乗り方を見直してみよう

4月1日から自転車の交通違反に反則金を課す「青切符」の制度が始まりました。多くの違反がありますが、その中でも特に「ながら運転」の違反割合がとても大きいとされています。日常的に自転車に乗る機会が多いと思いますが、乗る時のルールについて再度確認をしてみてください。三中の学区は道幅が狭かったり、交通量が多い場所があったりと、注意が必要な場所が多いです。交通ルールの順守はもちろんのこと、正しい乗り方を意識して安全に利用できるようにしましょう。

【読売新聞　朝刊　4月8日(水)】

自転車「青切符」スタート

自転車の交通違反―3種に反則金を科す「青切符」の制度が1日に始まった。16歳以上が対象となる。自転車に乗る時のルールを厳守であらためて確認しよう。（野口孝浩）

ながらスマホ 絶対NG

東京都府中市の都立府中東高校3月、都が主催する自転車の安全教室が開かれ、約300人の生徒が参加した。講師を務める一般財団法人「日本交通安全教育普及協会」の担当者が「青切符」制度が4月に始まります。高校生活始まったら対象です」と呼びかけた。

生徒たちは、教習用実車（VR）技術で、自転車の事故を疑似体験できる「VRゴーグル」を着けて交通ルールを学んだ。自転車で15分ほどかけて通学している男子生徒（16）は「道路標識に気をつけて安全に乗るようにしたい」と話した。

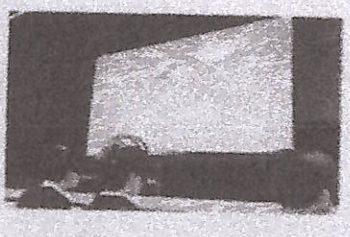
◇

「高校生など、若い世代に特に注意してほしい違反のひとつは、走行中にスマートフォンを使用する『ながらスマホ』です」。一般財団法人「全日本交通安全協会」総務部長の布施興南さんは警鐘を鳴らす。

「ながらスマホ」は通常、「青切符」を交付される違反にもある悪質な違反で、反則金も最も高い1万2000円だ。片手運転になってバランスを崩しやすいなど危険性が高く、死亡・重傷事故につながりやすい。

「自転車に乗る前に、スマホは必ずカバンにしまうように徹底してください」と布施さん。「ながら」をやめたり、ポケットに入れたりしたままなら、アプリの通知が出ていても振動がした時、つい手に取ってしまう原因になる。

気になるのは、歩道を走った場合の「通行区分違反」



VRゴーグルを使って自転車の交通ルールを学ぶ生徒（昨日、府中市の都立府中東高校で）

反則金1万2000円 ■ 家庭でルール確認を

（反則金8000円）だろう。自転車は法律上「軽車両」と位置付けられ、原則、車道の左端を走らなくてはならない。「歩道は歩行者優先。自転車で走って事故を起こすと、歩行者にけがを負わせる危険が高まる」と布施さんは説く。

車に歩道を走った場合だと、通常は警察官の指導や警告にとどまり、青切符は交付されない。ただ、歩道でスピードを出し、歩行者の側を通りすぎるなどの場合は、青切符の対象となる可能性がある。

13歳未満の子どもや70歳以上の高齢者などは歩道を走行できる。また、「必要な事情」で歩道を駐車している自転車が歩道者の邪魔が多い――などのために車道を走行するのが危険な場合、歩道の車道寄りを徐行できる。

◇

自転車の安全な乗り方の情報を発信する「自転車の安全利用促進委員会」の座長・さくらさんは、「昨年5～6月は、自転車通学を始めた高校1年生の事故が増えた時期。青切符の制度と交通ルールを家族で確認してほしい」と注意を促す。

通学路のうち、一時停止の標識がある場所や信号のない交差点などをチェックしよう。一時不停止や逆走運転はいずれも違反で、指導や警告の対象だったが、複数の違反が重なって歩行者に交通への危険を生じさせるなどした場合は青切符が交付され、反則金が科されることもある。

6月以降は雨の日も増えるため、レインコートやポンチョを着るようにしたい。最近はしゃれたデザインのものも販売されている。自転車に乗る時の責任の重さを理解させることも重要だ。自転車とぶつかり、歩行者が死亡したり重傷を負ったりした事故のうち、自転車に乗っていた人を年代別に見ると高校生が約4割を占める。通勤・通学の「時」は「車にはねられないかどうか」ばかりに気を取られがちだが、加害者となり得ることも注意することも大切だと話している。

◆青切符の対象になる主な違反

ダブル違反 即交付の対象

警察庁によると、交通事故に占める自転車関連の事故の割合は年々高くなっている。自転車の交通違反の検挙数は2025年は8万163件で、10年前の約3倍となっている。このような変化も背景に、自転車の交通違反にも青切符制度が導入された。

警察官が違反を確認した場合、基本的には現場で注意や警告を行う。ただ、交通事故につながる悪質な違反は即座に青切符が交付され、反則金を支払うこともある。

原則に青切符が交付される違反は、ながらスマホ（反則金1万2000円）や遮断踏切への立ち入り（同7000円）、ブレーキのない自転車での走行（同5000円）など。ほかに、「傘を差しながら一時不停止」のように、複数の違反で事故の危険が高まった場合も対象となる。

自転車に乗っている最中の事故による死傷者数を年齢別に見ると、15～19歳が最も多い。特に、通学時間帯の午前7～8時と午後4～5時に多く発生しているため、各都道府県警では、この時間帯に重点的に指導や取り締まりを行うことにしている。

【ありがとうございます】

毎朝、正門で登校指導をしていると、積極的に挨拶を交わしてくれる人がたくさんいます。また、入学式の準備で体育館のステージ上の装飾をしていると、3年生が「手伝います」や「ありがとうございます」と、たくさんの人が声をかけてくれて、始業式で話をした【挨拶】と【ありがとう】が良い形であらゆる場面で見られるようになっています。伝えることは勇気がいることではありますが、言葉にすることで自分も相手も気持ちがスッキリして、充実した人間関係を構築することにつながると思います。日常の中で、さらに前向きな言葉を増やしていけるように意識してみてください！